



恋愛詩集1



さつき

陽だまり

猫が陽だまりで眠るように
私も貴方の腕の中で眠っていたい
貴方の腕の中でなくてもいい
貴方の傍にいられば
ただそれだけでいい

猫にとって陽だまりが
大切な場所のように
私にとって貴方の傍は
大切な場所

貴方にとって私の傍は
大切な場所ですか？

月明かり

月明かり差し込む部屋で
私と貴方
一つになって眠る
吐息が聞こえる距離にいる二人
でも貴方に私の手は届かない
私のこの想いも
きっと届きはしない

でもそれで構わない
貴方が私を必要とするなら
想いなど殺してしまおう
貴方に必要とされるなら
この心さえも殺してしまおう

そして貴方の望む私を
貴方が必要とするもので飾り立てて
差し出してあげる
貴方が必要としてくれる限り

もらいもの

あなたは私に忍耐をくれた
手を掛けて 待たされて
けれどもああ 待ち過ぎて
10年と少し 逃げ出した

あなたは私に自信をくれた
鍛えられ 磨かれて
けれどもああ ひとのもの
1年と少し 手放した

あなたは私に優しさをくれた
よく話し 愛されて
けれどもああ 嘘が見え
1年たたず 手を切った

私はあなたに何をあげたの？
わからない でもなにか
だからこそ 残しましょう
今度はたくさん あげられるように

蝶

ふうわりとした夜風を
カラダにまとして
私は夜の蝶になる

ふらりふらりと夜の街
さ迷い歩けば
物欲しげな蜘蛛一匹
蝶を見つけてやってくる
あたかも
自分の巣に獲物がかったと言わんばかりに

私は懇願するわ
哀しげに潤んだ瞳で
お願い蜘蛛さん
私を食べないで
私まだ生きていきたいの
この街を歩いていきたいの

それでも蜘蛛は首を振る
それは出来ない相談
さあこっちへいらっしゃいと

でもね
目の前の蜘蛛はまだ気付かない
哀しげな瞳の奥
ひっそり灯った
悪の焰を
心の奥底の
小さな赤い舌まで